

## 平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	忠別川河川敷の昆虫類種多様性と生態系ネットワーク効果の検証
報告者氏名・所属・職名	奥寺 繁・旭川校・講師
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	奥寺 繁・旭川校・講師
研究内容及び成果の概要	
<p>河川敷の植生は、都市部における生きものの生息・生育空間として生物多様性維持に重要な役割をもつ。その連続した植生環境は、個体群供給地となる中核地区（山間部など）と拠点地区（大規模緑地公園など）を連結させるネットワーク、生態的回廊（コリドー）としても機能し、生息生育環境の分断化を防いでいる。しかし、具体的にどのような河川植生モデルがコリドーとして有効に機能するかは検討されていない。そこで、河川敷がコリドーとして効果的に機能するための要因（植生の種類と規模、周辺環境）を、食植性昆虫の多様性を指標として明らかにする。北海道旭川市は、北日本では仙台と札幌に次ぐ人口密集都市であり、上川盆地に約10km四方の都市部とその周囲に広大な農耕地を有する。そこには植生規模の異なる3つの河川、石狩川（河川区域幅約300m）、忠別川（同約200m）および牛朱別川（同約100m）が流れる。本年度は忠別川を調査地とし、500m～1km間隔で9ヶ所の調査地点を設定し、昆虫相の個体群供給地である山間部（嵐山）から都市部にかけて、半翅目顎吻亜目類（セミ、ヨコバイ、ウンカなど）を調査した。この昆虫群は植食性で、種ごとに特定の寄种植物をもつため、生息環境ごとに特有の種組成をみせる。また、日本全土から約1000種が知られており、限られた調査区域からも多数の種を得ることができる。</p> <p>採集の結果、忠別川流域から現在のところ約50種の顎吻亜目昆虫が確認されている。個体群供給地となる山間部から都市部にかけてそれほど大きな種構成の差異は認められていない。しかし、調査期間中に忠別川で大規模な増水が発生したため、多くの調査地点で植生の攪乱および消失がおこってしまったため、通年での調査が行えず詳細な検討はできていない。そのため本年度は、調査地から発見された顎吻亜目昆虫の分類学的新知見を研究成果として報告する。本亜目のヨコバイ科ヒメヨコバイ亜科は3mm程度の微小な昆虫であるが、北海道における知見は乏しい。本調査において、北海道から初確認となるヒメヨコバイ類を数種確認した。</p>	
成果の公表の状況	
【著書】	
【学術論文】	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
配布又はダウンロード可能な資料	なし
問い合わせ先	代表者：奥寺 繁 電 話：0166-59-1313 FAX   ： mail  ：okudera.shigeru@a.hokkyodai.ac.jp